

感染症の場合の登園について

幼稚園・保育園及びひまわり学園では、お子さんが感染症にかかった場合は、本人の健康の回復及び他の園児への感染を予防するため、一定期間登園を控えていただいております。

医師の診断及び治療を受けられ、病気が治癒、又は他の園児への感染のおそれがなくなりましたら、別紙の「登園許可証明書」、又は「登園届」のいずれかを園へ提出してください。お子さんとまわりの園児の健康を守るためにご理解とご協力をお願い致します。

※病（医）院によっては、「登園許可証明書」を記入する際に文書料がかかることがあります。

1 感染症にかかった場合の登園に必要な書類について

お子さんがかかった感染症により、提出していただく用紙が異なります。

「登園許可証明書」：医師による診断後に医師が記入するもの 表1・・・様式1

「登園届」：医師による診断後に保護者が記入するもの 表2・・・様式2

2 「登園許可証明書」が必要な感染症

表1

病 名	症 状	感染しやすい時期	登園のめやす
インフルエンザ	悪寒・発熱・食欲不振・頭痛・関節痛・吐き気・下痢など	症状がある間（発症前24時間から発病後3日程度までが最も感染力が強い）	発症した後5日を経過し、かつ解熱した後3日を経過するまで
麻疹（はしか）	発熱、結膜の充血や目やになど、熱が一時下がると頬の内側の粘膜に発疹が出現。再び熱が上がり発疹が全身へひろがる。	発症1日前から発疹の出現後の4日間	解熱後3日を経過してから
風疹	発熱と全身に赤みのある発疹、首や耳の後ろなどのリンパ節の腫れ	発疹出現の前7日から後7日間くらい	発疹が消失してから
水痘（水ぼうそう）	発疹は、全身に見られ、紅斑、水ぼう、痂皮（かさぶた）の順に変化。発疹はかゆみを伴う。	発疹出現1～2日前から痂皮形成するまで	すべての発疹が痂皮（かさぶた）化してから
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	発熱、片側または両側の耳下腺が腫れ痛みを伴う。乳児や年少児では感染しても症状が出ないことがある。	発症3日前から耳下腺腫脹後4日	耳下腺、顎下腺、舌下腺の腫脹が発現してから5日を経過するまで、かつ全身状態が良好になるまで
結核	肺結核では、咳、たん、発熱などが2週間以上続く		医師により感染の恐れがないと認めるまで
咽頭結膜熱（プール熱）	39℃前後の高熱、のどの痛み、結膜炎	発熱、眼の充血などの症状が出た数日間	主な症状が消え2日経過してから
流行性角結膜炎	眼の充血、ひどい目やに	充血、目やになどの症状が出た数日間	感染力が非常に強いため結膜炎の症状が消えてから
百日咳	風邪様の症状から次第に咳が強くなる。1～2週間で特有の咳（短い咳が連続的に出る）となり、夜間に悪化。発熱はあまりみられない。	抗菌薬を服用しない場合、咳が出た後3週間を経過するまで	特有の咳が消えるまで又は5日間の適正な抗菌性物質製剤による治療を終了するまで
腸管出血性大腸菌感染症（O-157等）	激しい腹痛、頻回の水様便や血便など		症状が治まり、かつ、抗菌薬による治療が終了し、48時間をあけて連続2回の検便によって、いずれも菌陰性が確認されてから

裏面へ続きます

病名	症状	感染しやすい時期	登園のめやす
急性出血性結膜炎	急性結膜炎で結膜出血が特徴	ウイルスが呼吸器から 1～2 週間、便から数週間～数か月排出される	医師により感染の恐れがないと認めるまで
髄膜炎菌性髄膜炎	急激な発症（発熱・頭痛・嘔吐・髄膜刺激症、血圧低下、紫斑など）		医師により感染の恐れがないと認めるまで

3 「登園届」が必要な感染症(医師の診断を受け、保護者の方に「登園届」を記載していただきます)

表 2

病名	症状	感染しやすい時期	登園のめやす
溶連菌感染症	突然の高熱、のどが赤く腫れ、痛みを伴い、舌がいちごのように赤くプツプツになる(いちご舌)。かゆみを伴う発しんなど。	適切な抗菌薬治療を開始する前と開始後1日間	抗菌薬内服後 24～48 時間経過していること
マイコプラズマ肺炎	乾いた咳が徐々にたんが、からむ咳となる。解熱後も 3～4 週間咳が続くことがある。	適切な抗菌薬治療を開始する前と開始後数日間	発熱や激しい咳が治まっていること
手足口病	水ほう性の発しんが口の中、手のひら、足の裏などに出る。口内炎がひどく食事がとれないことがある。	手足や口の中に水ほう・潰瘍ができた数日間	発熱や口の中の水ほう・潰瘍の影響がなく普段の食事がとれること
伝染性紅斑(リンゴ病)	軽い風邪症状の後、頬が赤くなったり、手足に紅斑が出る。	発しん出現前の 1 週間	全身の状態が良いこと
ウイルス性胃腸炎(ノロ、ロタ等)	発熱、おう吐、下痢	症状のある間と症状が消えた後 1 週間(量は減少するが、数週間はウイルスを排泄)	おう吐、下痢などの症状が治まり、普段の食事がとれること
ヘルパンギーナ	39℃前後の高熱、のどの痛み。のどの痛みがひどく食事がとれないことがある。	急性期の数日間(便中に 1 ヶ月程度ウイルスを排泄)	発熱や口の中の水ほうや潰瘍の影響がなく、普段の食事がとれること
RSウイルス感染症	発熱、鼻水、咳、ぜいめい、呼吸困難など	呼吸器症状のある間	呼吸器症状が消え全身の状態が良いこと
帯状疱疹	痛みとともに、神経の走行に沿って、紅斑や小水ほうができる	水ほうがある間	すべての発しんが痂皮(かさぶた)化してから
突発性発しん	38℃以上の高熱が 3～4 日続いた後、体幹部を中心に発しんが出る		解熱し機嫌が良く全身の状態が良いこと

4 その他の感染症について

次に記載する感染症は、登園にあたっての書類の提出は原則必要ありませんが、早めに受診し必要な治療を受けましょう。なお、症状によっては「登園許可証明書」等の提出をお願いすることがあります。

その他の感染症

とびひ(伝染性膿痂疹)、アタマジラミ、ミズイボ(伝染性軟属腫)、ウイルス性肝炎